

令和8年度 富田林市元気なまちづくりモデル事業補助金（市民公益活動チャレンジ・プライド）審査結果及び講評

団体名	補助事業区分	提案事業名	取り組む地域課題	講評
甘山秋友会	自由テーマ型	津々山総踊	地域住民が世代を超えて交流し、つながりを深めることを通じて地域全体の活性化に貢献することを目指しています。盆踊りをきっかけに、子供からお年寄りまで誰もが楽しめる交流の場を創出し、特に盆踊りを知らない子ども達には踊りを教え、盆踊りの文化や伝統を伝え次世代へと受け継いでいくことを目的としています。地域のコミュニケーションを促進することで、より住みよい富田林市を築くことを目指します。各地域の掲示板やSNS、すこやかネットなどあらゆる媒体を通じて富田林市全体に呼びかけ、地域の絆を育むための催しを計画しています。	新旧コミュニティの融合のきっかけとなるなど、世代間交流をはじめとした意義ある活動を展開しており、今後さらなる発展が期待される。また、他団体との交流を通じて活動の広がりが見られる点や、自立化に向けた意識を持って取り組んでいる点も評価できる。一方で、企画の実施にあたっては、多様な主体がより一層参画できるような工夫の余地があり、今後は参画機会の拡充や参加促進の仕組みづくりについて検討を進めることが望まれる。
寺池公園等を活かしたまちづくりの会	スタートアップ型	金剛地区再生に向けた 市民活動の輪を広げるプロジェクト	金剛地区全体の魅力・文化の向上、金剛地区の再生に繋げていくためには、自治会も含めて多くの方々の参画のもと取り組み、皆で達成感を共有しながら、都市空間に働きをかけていくことが、都市魅力の創出だけではなく、地域への愛着・アイデンティティの形成、コミュニティの活性化、シビックプライドの醸成、さらにはウォーキングなどによる健康増進の観点からも重要となる。これらを地域主導・関係者連携のもと、段階的・継続的に実現していくためには、活動の目標となる将来像を共有することが重要となる。このため、10年、20年の歳月をかけてでも金剛地区の都市空間の魅力を高めていくための目標像と実現化方策を共有していく必要がある。以上のことから令和8年度は、下記2点に取り組む。 ①金剛地区の多くの自治会員の参画を促す取り組みを企画するとともに、金剛地区再生に向けての活動の意義や成果を実体験いただくことで自治会参画の促進と意識の共有を図る。 ②多くの関係者が関わり共に創り上げていくための“都市空間創造の目標像(維持・改善方針)”を公民共創により段階的・漸進的に実現していく“方針・体制(案)”と併せて提案していく。	昨年度の住民主体の活動においては参加者のやりがいや「醸成されているものの、今年度は構想づくりの段階へと移行し専門性が高まることから、従来の参加者の関与をどの程度維持・発展させられるかが重要であると考えられる。あわせて、多様なメンバーの参画を一層促進し、一般市民に対しても活動内容を広く周知するなど、参加の裾野を広げる工夫が求められる。
特定非営利活動法人 富田林ほっこり会	自由テーマ型	障がい者家族に希望と勇気を与える事業	精神障がいやひきこもり状態の人々やその家族気軽に語れる居場所が少ない。同様の悩みを持っているから話せることもあり団体の周知をしているが周知不足。令和7年度開催『ほっこり公開講座』では参加者182名(令和6年度93名 89名増)となりました。ほっこり公開講座の開催意義はあった。引き続き実施すべきであると思う。ただ、支出が多い事が課題。公開講座の質を下げずに開催する事を目指す。通常の例会においては一桁に留まっている。ただ、精神疾患という特殊事情もあり参加者を単純に増やすことを目指すのではなく、参加者の為に開催する。	公開講座の参加を通じて自らの課題を発見し、通した講師を招へいするなど、事業の企画面においても充実が図られている。一方で、各講演会において想定する対象者をより明確に設定し、ターゲットに応じた効果的な広報を行うことで、参加者の確実な確保に努めることが求められる。公開講座の成果を単発で終わらせることなく、例会等の継続的な活動へとつなげていくための仕組みづくりについても工夫をされたい。
富田林市難聴者協会	スタートアップ型	聞こえのバリエをなくし誰もが安心できる街づくり	難聴者の困難の理解、社会的課題の周知活動、難聴者と聴者の協働関係の構築。市内在住、在勤、在学の難聴者の福祉向上を基本とし、支援の輪を広げ、病院やスーパーマーケットなど、生活の場での困難を軽減する。また、引きこもりなど解消すべく、交流の場を設ける。	講演を通じて市民の障がい理解の促進を図るとともに、単なる啓発にとどまらず、受講後のサポートにつながる仕組みを構築し、理解促進から実際の行動・支援へと展開していく工夫が求められる。また、講師の人選や報酬設定については、その透明性及び適切性に十分留意する必要がある。
フクチェン	学生活動応援型	フクチェン	コロナが流行する前に比べて、地域の人たちや近隣の地域の人たち同士の交流が減り、活気がなくなってきていると考える。こうした中で私たちは、金剛マルシェ等の地域住民が主体となって開催されるイベントに参加し、古着の無償回収、販売を行っていく。そして、地域の方々や来てくださった人とコミュニケーションを深め、地域活性化を目指し、衣服の廃棄量削減といったSDGs達成につなげていくことを目的とする。	消耗品についてはリサイクル品の活用を徹底するなど、より一層の資源有効利用が望まれ、事業全体の廃棄物削減も視野に入れて事業展開を図ってほしい。修理可能なものは修繕の上で再利用するなど、コスト削減と資源循環の両面から運用の見直しが必要である。今後は事業全体として廃棄物削減の視点を一層強化し、持続可能な事業展開と継続性の確保が期待される。
とんままRe.	スタートアップ型	子供用品リユース事業・子供中心マルシェの開催	子供用品（子供服・おもちゃなど）を気軽ににおさがり出来る場・機会が不足しており、循環システムが地域に十分に整備されていない。（富田林市内に子供用品の無償リユース事業をメインに手掛ける団体は現時点で無い）子供が集える子供中心のマーケットが市内に少ない。地域との繋がりが希薄になっている家庭もあると推測する。（こどもまんなかを推進）	リユース事業としての理念や取組自体は評価できるものであり、今後の展開次第では継続的な活動として発展していく可能性を有している。一方で、持続可能な事業とするためには会員数の増強も視野に入れた運営が求められる。事業展開においては先進事例である「ドットコムおおさか」や「マミークリスタル」などの取組も参考にしながら、体制強化を図ることが望まれる。また、細かな消耗品についてもリサイクルの活用を一層進めるなど、資源循環の徹底が求められる。あわせて、消耗品支出が多い点については懸念があり、必要不可欠との説明があるものの、リユース事業の理念との整合性の観点からも精査が必要である。
NPO法人 富田林自然農法根っこ会	自由テーマ型	農とアートのまちづくり	遊林農地の増加、農業の担い手不足、高齢化。 市民の食の安全と健康 地域コミュニティの希薄化	講演会については実施自体の成功にとどまらず、その効果が「誰に」「どのように」波及していくのかを明確にし、事業評価において検証できる形で整理することが求められる。また、期待される効果が実際に得られたかどうかについて、定量・定性的な観点から検証を行うことが必要である。
喜志西小学校区まちづくり協議会	協働事業推進型	みんなつながろう喜志西	地域住民同士のコミュニティの確立 まちづくり事業の活動に主体的に参加できる取り組み 防災・防犯意識の向上	コミュニティの形成・確立に資する有意義な取組として評価できるとともに、経済的自立性についても一定の検討がなされており、今後の継続的な展開が期待される。また、住民同士が話し合う場の設定やサポーター制度の導入など、自主的な企画立案の仕組みづくりが進められている点は評価でき、地域主体の活動としての発展性が認められる。今後も無理のない形で活動を継続しつつ、やりたい人が参加できる機会や場を適切に提供することで、人材の裾野を広げ、持続可能な運営につなげていく必要がある。
シリウス・ウィンド・バンド	自由テーマ型	吹奏楽 無料定期演奏会 公開練習	・地域の活性化の停滞 地域イベントや交流の場が限られており、地域の賑わいや一体感が薄れつつある。特に若年層と高齢者の世代間交流が不足している。 ・市民の交流機会の不足 日常的に異なる世代や背景を持つ市民が交流できる場が少なく、孤立感や地域への関心の低下が課題となっている。特に高齢者や子育て世代にとって、気軽に参加できる公共の交流機会が乏しい状況である。 ・音楽文化の衰退 地域の文化活動や音楽活動が縮小傾向にあり、若者の文化離れが進行している。これにより、地域の文化的アイデンティティが希薄になっている。 ・若者の育成・活躍の場の不足 若者が主体的に関われる文化的・社会的な場が少なく、地域活動への参加意識の低下や進学・就職後の地域離れにつながっている。	収益性の確保に向けた工夫が見られる点が評価でき、今後の更なる発展が期待される。今後、持続的な運営を実現するためには、資金確保にあたりビジネス感覚を一層意識した事業運営をお願いしたい。また、部活動の地域移行の動きとも連動させながら、地域における音楽活動の受け皿としての活躍を期待する。
すこやかネット明治池	自由テーマ型	「ふるさと明治池」ビルドアップ事業【第3期】	明治池中学校区住民の少子高齢化(児童生徒数はH10年ピーク時の1/3)に伴い、地域や保護者同士の繋がりが希薄になっている。「活気あるまち」「住みたいまち」「安心できるまち」を実現すべく地域課題とし、多世代交流の場をつくり、行事や共同作業を通して「頼り、頼られる経験」を共有しながら地域への愛着を育てる。	次世代のリーダー育成に貢献するなど意義のある取組として評価できる。一方で、経済的自立性については課題があり、持続可能な事業運営に向けた工夫が求められる。現状では資金面の安定性に懸念が残るため、収入源の多様化や安定的な財源確保の仕組みづくりが必要である。例えば、地元を離れた方々等からも寄付を募るなど、継続的な支援につなげる仕組みの検討も一案として考えられる。
とんだばやし観光会	自由テーマ型	「富田林を歩こう!～ええとこ富田林」のまち巡り 全5回	まち巡りを通して、少しでも富田林の豊かな自然、古くからの歴史、多様な文化を体感していただき、富田林の「ええとこ」を感じていただきたいという思いです。 そして、富田林のことをあまり知らない市民の方が多いことに対して、まち巡りを通してその良さを体感していただきたいと思います。富田林のよさを体感していただいて、末永く富田林に住みたいと感じていただくこと。そして、その結果郷土愛を育てていただき、お子様やお孫様にもそれを伝えていただきたいという思いがあります。 そのお子様、お孫様が成人になっても富田林にずっと住み続けたいと思っていただくということを大きな課題として挙げさせていただきます。	集客面については課題があり、より多くの参加者を確保するための工夫が求められる。具体的には、参加者数の増加に向けた広報・企画面での改善に加え、「おおさかあそ歩」など他団体が有するノウハウを参考にしながら、魅力向上や参加促進の取組を進めていくことが望まれる。
嬉ハウス	自由テーマ型	嬉々日和り vol.3	近年、地域コミュニティの希薄化により、子育て世代や若い世代が地域との接点を持てにくくなっている。特に、妊娠・出産・子育てに関する不安や孤立感を抱えながらも、気軽に相談できる場や、多世代と自然につながれる機会が不足している。また、地域活動においては単発参加にとどまりやすく、継続的な関係性づくりや居場所形成へつなげる導線づくりが課題となっている。 昨年度実施した「嬉々日和り」では、サバーファームを活用し、多世代交流や地域活動者同士のつながりづくりを行った。来場者からは「また来たい」「自分の地域でも開催してほしい」といった声があり、地域交流へのニーズの高さが確認できた。本年度は、これまでの交流型マルシェの実績を活かしつつ、新たに「命」「お産」「地域で支える子育て」をテーマに加え、若い世代や妊娠前後世代も含めた地域交流の場づくりへ発展させる。 さらに、産後ケア事業の広域利用開始など、地域で妊産婦を支える仕組みが広がる中、市民が制度や地域資源を知り、安心して地域とつながれる機会を創出する必要がある。	彼方・東條地区をはじめとする地域住民とのネットワーク形成の機会として本事業を積極的に活用し、単年度にとどまらず、この3年間の事業を通したストーリー性を持たせることが求められる。また、活動の継続性という観点からは実施体制に課題があり、持続可能性の確保に向けた整理が必要である。さらに、会場として予定されている錦織神社については、実施環境の適切性の観点から、天候対応等も含めた検討が必要である。